

4 災害時の高規格道路の役割

■新潟県内の活用事例

■平成16年新潟県中越地震（2004年10月23日）

○新潟県中越地震時は、「関越道」が通行止めとなり、「磐越道」が代替路として機能しました。

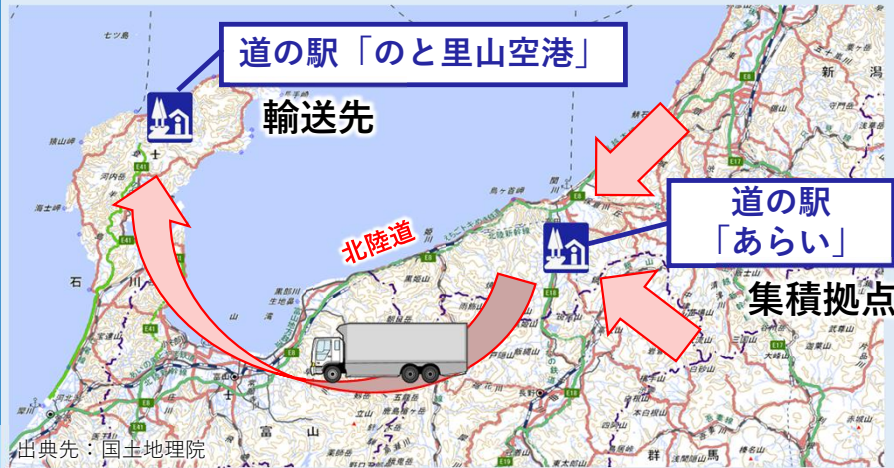
■平成23年新潟・福島豪雨（2011年7月27日～30日）

○国道49号が通行止めとなり、「磐越道」が代替路として機能しました。

■令和6年能登半島地震（2024年1月1日）

- リレー防災セミナー（主催：NPO人と道研究会 後援：国土交通省）の活動を通じて結びついた各駅が連携して災害地の道の駅支援を実施しました。
- にいがた下越駅長交流会や全国「道の駅」女性駅長会が中心になり、各駅の**備蓄品を防災道の駅「あらい」に集積し、被災地の道の駅「のと里山空港」へ「北陸道」等を経由し輸送**しました。

防災道の駅の位置関係



（出典）能登半島地震における「道の駅」の対応について（国土交通省道路局企画課評価室 令和6年4月）

道の駅「あらい」に集積した支援物資の積込



道の駅「のと里山空港」に届けられた支援物資



■糸魚川市大規模火災（2016年12月22日）

- 糸魚川市の大規模火災では、国道148号を**通って長野県から消防隊が応援**に駆け付け、消防活動にご尽力いただきました。
- 「松本糸魚川連絡道路」が完成することで、より早い相互の応援が可能となります。



（出典）新潟県災害デジタルアーカイブ（平成22年12月22日）

■本年の大雪（2025年1～2月）

- 本年1～2月の大雪では、国道49号と磐越道の同時通行止めに伴い、**国道113号が新潟県と福島県間の広域迂回路**として、物流を支えました。
- 「新潟山形南部連絡道路」を整備することで、より早く確実な物資輸送が可能となります。



（出典）国道49号の通行止めに伴う広域迂回位置図（令和7年1月8日ほか）（北陸地方整備局、東北地方整備局、東日本高速道路（株））